長松小の自問教育

＝いつでも　どこでも　玉みがき＝

唐津市立長松小学校
校長　佐々木　講吉

1　自問教育とは

近年，教育に関する課題は様々ですが，特にいじめ問題は，保護者にとっても子どもたちにとっても深刻な課題と言えます。

いじめは，あってはならない事でが，現実はそうではありません。いじめの解決に特効薬はなく，ワクチン役である心の教育を接種することが必要と考えています。

本校では心の教育を重視し，「思いやり」「がまん」「正直」「気づき」「感謝」の五つの心を成長させたいと考えています。また，心の教育を推進するにあたり，一方的な指示・命令だけではなく，自ら正しい判断や行動ができるように自問自答させることとしています。

このことを，「自問教育」と位置付けて，「いつでも　どこでも　玉みがき」を合言葉に，優しく迷惑をかけない心づくりを目指しています。

時間はかかりますが，子どもたちが，これからの厳しい社会をたくましく生き抜くことを願って，全職員，全児童で挑戦しているところです。

2　玉みがきとは

「玉」とは，「心」のことであり，子どもたちには，わかりやすいように「玉みがき」や「心みがき」と指導しています。五つの玉（心）みがきをとおして，心の成長を図るものです。

がまん玉みがき（忍耐力）

私語をしないことや，時間を守ること等規範意識の向上を目標としています。

気づき玉みがき（洞察力）

周りを見て，迷惑をかけていないか，困っている人がいないか，見て見ぬふりをしていないか等に気付くことを目標としています。

正直玉みがき（実直力）

自分の心に正直になり、ごまかさないことを目標としています。

思いやり玉みがき（共感力）

他人の心情や状態を察して，同情したり共感したりすることを目標としています。

感謝玉みがき（感謝力）

感謝の気持ちをもち，素直に「ありがとう。」が言えることを目標としています。

3　自問掃除とは

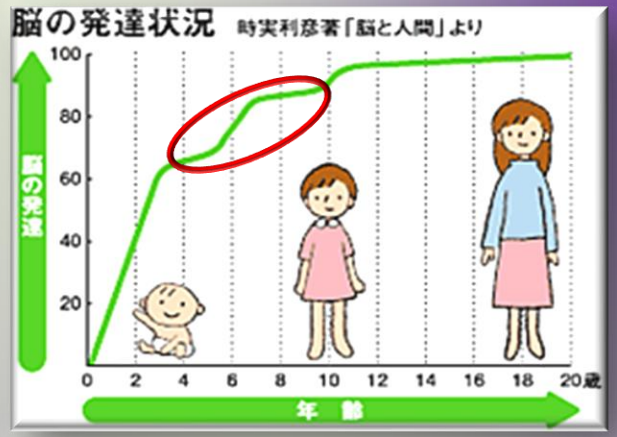
自問掃除とは，自問教育の実践の場の一つです。

掃除時間を活用して，児童一人ひとりが持っている「自主性」（自分からすすんで考えたり行動したりすること）を高めたり，人に迷惑をかけない態度や心を実践します。

子どもたちは，スポーツ等の活動を通して，思いやりや忍耐などを体験する子もいますが，日常の生活の中ではその機会は少ないものです。そこで，全校一斉に取り組む掃除時間を活用して，五つの玉みがきを全校で取り組み，心の成長を図るものです。

最終的には，掃除の時間だけでなく，学校でも家庭でも，誰にでも自分の正直な心，がまんの心，感謝の心，思いやりの心，気づきの心を発揮する「いつでもどこでも　玉みがき」に広がることを期待しています。

4　小学校期までに



このグラフは，脳の発達を示しています。ご覧のとおり，４歳くらいまでに感情等の発達が著しく，幼少期にはかけて知識や体験したことが記憶されます。

ところが 10 歳を過ぎるとほとんど発達は止まります。よく，「つ」がつく年，つまり９つまでに人格の形成はほぼ終えると言われます。

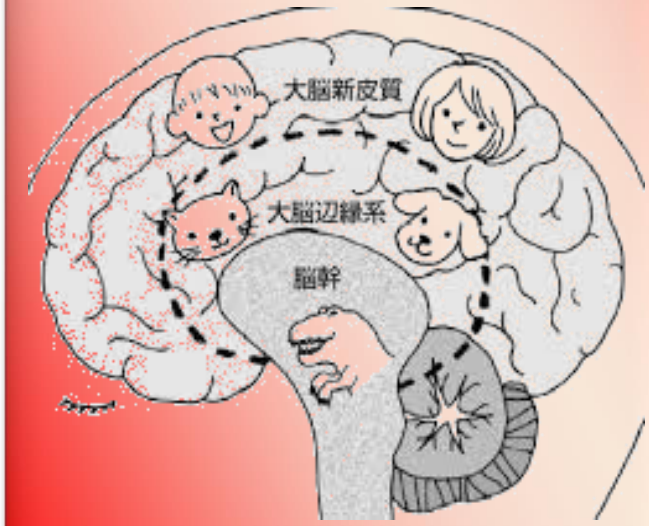
小学校期の子どもへの関りは重要なのです。社会性の土台を培う重要な時期です。特に，他人との関わり方など経験によっても培われます。

脳科学的見地からも，「考える-体験する-振り返える-認める」の行動は，子育てのキーワードかもしれません。ご家庭でも・・・

5　脳と心

脳の構造は，脳幹，大脳辺縁系，大脳新皮質から成り立っています。

人間だけが、がまん，感謝，親切，正直，気づきなどの感情や行動を司（つかさど）る大脳新皮質という「脳」を持ち備えています。

大脳皮質は，鍛えなければ成長しません。鍛えるとは，「自己決定（意思決定）―実践―振り返り」を繰り返すことです。その結果，メタ認知力が向上し，心も成長します。

脳を鍛え，心を成長させることは，自己肯定感や自尊心なども高め，心豊かな生活を送れることに繋がると考えます。